

「校内研修プログラム」の活用事例

～子どもや保護者に障がいの理解を促すための校内研修～

【活用するシート】

Ⅲ－１ 学級づくり

③ 障がいの理解

研修時間
20分間

主な内容		
○ 子どもたちや保護者に障がいの理解を促す方法について交流し、「互いのよさを認め合える学級づくり」についての理解を深める研修		
手 順		
準 備	・「Ⅲ－１ 学級づくり ③ 障がい理解」のシート ・「発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例」のシート（幼 13、小 26、中 39、高 52）	
タイム テー ブル	1分	1 研修のねらいの確認 ・発達障がい等への教育的支援について理解する方法を考える。 ※子どもや保護者の障がいへの理解の程度と障がいをもつ子どもへの配慮（言葉の選び方など）を考慮する。
	2分	2 研修方法の説明 ・「発達障がいなど、特別な教育的支援についての説明例」を確認する。 ※障がいの定義や種類、特別支援学校や学級の取組、将来の生活など、生徒や保護者が疑問に思っている内容も障がい理解の対象になることを伝える。
	10分	3 シートを活用した演習 ① 「子どもたちに、障がいの理解を深める取組の交流」と「保護者に、障がいの理解を深める取組の交流」のテーマに分かれ、3～4人の小グループで取組事例について交流・協議する。
	4分	② 全体交流 ・テーマ別グループ協議の内容を交流する。
	2分	③ 今後の方向性の確認 ・学級活動や保護者懇談会など、理解啓発する時間を決定する（個人）。
	1分	4 まとめ、振り返り
事後の取組		○ グループでの協議内容をまとめ、配付する。

ここがポイント！

3～4人の小グループにすることで、短時間でも参加者全員が発言できるようにします。

研修シート（試案）

Ⅲ－１ 学級づくり

③ 障がいの理解

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

1 子どもたちに、障がいの理解を深める取組の交流

項目	取組事例	各項目ごとの取組交流
※記入例 発達障がいのある子どもが学習や生活を行っていく上で困難なことの体験	※記入例 ○聞いた内容を正確にメモすることの難しさの体験 ○複雑で量の多い文章を読むことの難しさの体験 ○友達を遊びに誘うのにうまく伝えられず、受け入れてもらえなかった体験	
※記入例 一人一人のよさの理解	※記入例 ○子ども同士が、一人一人のよさについて理由を述べて学級全体に説明する機会の設定 ○子ども一人一人の個人目標を、学級全員が確かめる機会の設定	

2 保護者に、障がいの理解を深める取組の交流

項目	取組事例	各項目ごとの取組交流
※記入例 一人一人のよさの啓発	※記入例 ○保護者会等で、子ども一人一人のよさや違いを認める学級づくりを行うことについての説明 ○お便りなどで、子ども一人一人のよさを紹介する機会の設定 ○子ども一人一人に活躍の機会を与える場の設定	

別紙の「子どもたちへ」や「保護者の皆様へ」を参考にし、学級の子どもたちや保護者に説明し、理解を得ておくことも考えられます。

3 振り返り（発達障がいについて、子どもたちや保護者の理解を深めるために行うこと、また、改めて大切にしたいこと）

○ 「障がい」ではなく、「支援が必要な人」という視点をもつことが大切だと感じました。
○ 「障がいの理解」の視点で互いを認め合うことは、通常学級の全ての子ども同士の関わり方の改善にもつながると感じました。